

2008 年 4 月 19 日

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2008年4月15日】

団体名 NPO 法人 アート多摩

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するための活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

「みんなのかんたん芸術講座」一障がい者のための美術講座と創作教室

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

今日、ノーマライゼーションの理念のもと、障がいのある人たちの生活の質の向上、その人らしく生きられる社会の実現が求められています。そのためには、障がいのある人たちも趣味をもち、生活を楽しみ、いろいろな事への興味関心を開くことが重要となりますが、趣味をみつける機会は少ないというのが現状です。趣味活動へのきっかけとして、芸術、とくに美術鑑賞や創作活動は直感と感性によることから、障がいのある人にとって最も親しみやすい分野であると考えます。このプロジェクトは、障がいのある人が美術に親しみ感性を豊かにすることにより、個人の主体的な活力を引き出し、その人らしい自立した社会生活を促すことを目的とします。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

福祉施設、障害者施設など障がいのある人の集まりやすい場所を会場とし、年2回の芸術講座を行います。対象者は視覚障害を除き、障害の種類、程度は限定しません。

1回の講座は、1～2時間の美術講座と2～3時間の創作教室をセットとします。

美術講座は、都内や近隣の美術館で開催されている展覧会や作品、あるいは話題となっている美術のトピックスなどについてスライドショーを行い、特に作品の生まれた時代の文化や人々の生活などを含めて、わかりやすく解説します。創作教室は、美術講座で取り上げた作品の技法を応用して、参加者各人のオリジナル作品を制作します。美術講座と創作教室はいずれも専門の講師が指導します。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

一方的な企画にならないよう、地域の施設には事前に内容についての説明を行い、希望を聞き、プログラムを柔軟に変化させました。そのため、第一回目の講座は美術館での学芸員によるガイドツアーとなりました。創作教室が単なる体験に終わらず、社会とのつながりを実感してもらえよう、講師には創作指導のほか自身に創作活動や作品についての話もしてもらいました。参加者は、講師の作品にも関心を持ち、質問や会話も交わされ、福祉とは異なる分野の人(美術作家)と交流する機会ともなりました。また、講座と創作教室をセットにし、何を知り何をやるかを明確にしたため、美術に対して苦手意識のある人にも参加しやすいものとなりました。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

美術館の企画にあわせてテーマを選ぶという難しさはありましたが、地域性の高い作品や親しみやすい作品をテーマに取り上げることができました。多くの人に共感を呼ぶような内容でわかりやすく、講座、創作教室ともに熱心に参加してもらえました。しかし、一回完結のプロジェクトであったため、参加者がその後美術とどう関わっていくかについてのフォローができませんでした。また、施設のスタッフの中にも美術に対する苦手意識を持つ人が思いのほか多かったので、スタッフも積極的に参加してもらえるよう工夫すればよかったと考えます。プロジェクト参加者のフォローと、スタッフにも美術を楽しみ理解してもらうことを来年度の目標の一つに加えます。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし